会員様

妙智會	3月28日 春の大法要 聖地大道場（ライブ配信） 宮本法嗣先生ご指導	Vol.95 2023.4.15 1/2

本年の春の大法要に際しまして、各県から代表の皆様にご参拝を頂きまして、誠にありがとうございます。

本日のこの寒さと雨模様は、会主さま、大導師さまからの「改めなさい、もっとしっかりしなさい」という強いご指導であると、私は頂戴いたしております。

今この３月２８日を「春の大法要」と呼んでこのような形でさせて頂いておりますが、大導師さまが３月２６日に亡くなられた時、それまで会主さまの法要を３月にしておりましたので、今後どうしようかと、お経を上げながら考えておりました。

その時、私が頂戴したのは「お逮夜（たいや）」です。

「お逮夜」とは、法要やご命日の前日のことで、その亡くなった方をお呼びする行いです。

私は非常に悩んだのですが、お二方のお心、大導師さまは本当に、会主さまをお慕いしておりましたので、お逮夜に当たらない日を選ばれ、それでもやっぱりお傍がいいと思われて、一番近い２６日を選ばれたのだと、お経を上げて分かりました。

その様なご順序だったと分かり、「そうだ、お二方の法要を春にすれば良いんだ。そうだ『春の大法要』だ」とパッと浮かび、今日に至っているのです。

今日という日は、お二方の思いがある日だということ、そしてその日に、千葉聖地にお越しいただくということはとても意味のあることだと、強く皆さまにお話したかったのです。

もちろん、時間かかる、お金もかかる、しかし、それ以上のことを我々は頂いているんです。

こうやって我々は「春の大法要」というものを頂いて、これもお二方が生前から決められていたことであって、皆さんを救いたいがために、お二方は同じ時期にご逝去され、そして今、霊界で我々を守ってくださり、ご指導くださってるのです。

ぜひそれに応えていただきたい。

信仰というのは、尊いものがあってこその信仰です。そして、その尊いものを自ら進んで掴むことが信仰です。

この春の大法要で、お二方の素晴らしいお心を皆さん自身がここに来て掴むこと、これがとても大切です。

どんなにお二方から光を頂いても、我々が外に出て、その光を受けなければ心が温かくならないのです。

どんなにお二方が手を差し伸べてくれも、皆さんがその手を握り返さなければ結果が出ないのです。

正しい先祖供養、1人1人がお導きをすることで、皆さんはお二方がいる、光り輝くところに自ら進んでそれを浴びることができ、お二方の温かい手を皆さんは握ることができるのです。

ぜひ、今日この春の大法要で、自分から進んで光の場所に出るのだと、自分から手を握るのだと思ってください。

我々がそれをすれば世の中が良くなると信じて、お二方を信じて、自ら手を握りましょう。

今日はそのことをお願いして、春の大法要の指導といたします。